

普通科人文・社会科学 34班

外国人観光客を宮崎県に増やすために 私たちにできること

班員 甲斐真心 川崎真架 川畑柚奈

指導者 菊次淳先生

研究の動機

自分達の地元で外国人観光客が他県に比べ、少ないことに気づき宮崎県を活性化させ元気づけたいから。

先行研究

平成28年 12月発行
日本政府観光局(JNTO)より

外国人観光客は主にSNSで情報を得ている。日本の自然環境や入浴施設など実際に体験できるアクティビティに足を運ぶ傾向があり、体験を通して関連商品を買ってもらうよう体験と消費を関連付ける工夫が必要である。また、旅行会社の受け入れ環境も必要となっている。グローバル化が進む今、多言語対応の地図やカード決済を行えるようにする。



研究方法

- 外国人観光客が多い都道府県の特徴と宮崎県の特徴を比較する
- ALTの先生(10人程度)に日本のどの所に行きたいと思うのかを質問する。
- 日本人に海外のどこにいきたいのかをアンケートとり、外国人の傾向と関連づける。



必要な道具

- 海外本
- タブレット端末
- アンケート用紙



仮説

直接外国人と触れ合っ魅力を知ってもらうためにコロナ禍だからこそ出来ること、面と向かわなくてもできるPRの仕方を研究しコロナが収まった時に観光に来てもらえるような取組が効果的なのでは。



研究計画

アンケートをとった上で実態を調査し、私たちにできることを考える。出た具体例を実践し、改善する。



4月まで	延岡市役所に質問 ポスター作成
4～5月	アンケート
6～7月	アンケート分析
夏休み	実践
9～10月	改善・まとめ
11～12月	ポスター制作

参考文献

日本政府観光局

<https://action.jnto.go.jp/casestudy/101>

延岡市役所観光戦略課